

陰謀

太公（前漢の高祖・劉邦の父）によれば、陰謀には十二の鉄則があるという。一つには、敵が好き好むようなことをやって重要な事を知り、自分の意志に従ってこれに逆らってはならない。そうすることによって重大事を知り得たならば、謀（はかりごと）を速やかに実行すべし。その二つには、敵の愛する人と親密になって、その人の心に疑念を抱かせる。疑うときには、その国は必ず危うくなる。そうすることによってある事を謀ることができれば、計略は成功する。三には、敵の寵愛する家臣に賄賂を与えてその情報を得ることができれば、その謀は容易に実行できる。四には、敵が欲深く淫らにして無礼であれば、ますます増長させ、とがめてはならない。臣下も怨み、民衆も離れていつて謀は達成できる。その五には、敵の忠臣である者に対しては、少しばかりの賄賂を与え、誠実さをもってこの者との親しみを厚くせよ。親しみを得てから事をなせば、その謀も又必ず達成できる。六には、その国の世俗を視てその事を謀れ。媚びへつらいや色欲に溺れさせて寵愛を被る者があり、賢明な臣が日に日に遠ざかるならば、その国は必ず亡びる。亡びるに及んでこれを計略すれば謀は達成できる。七には、敵の嗜むことにおいて利益を与え続けて、本来の業務を怠らしめ、倉庫を空にさせ、その国を虚脱状態にしてから計略すれば、必ず謀は達成できる。八には、賄賂は必ず奇物珍宝によって行え。珍宝を与えてさらに珍宝を求めさせれば、その結果として謀の機会が増大し、実行し易くなる。九には、敵を大いに尊敬するとともに、自分が愚者であるかのように振る舞え。十には我と交わる人を必ず信じてその意思を強固なものにせよ。意気投合し、その人が我の用を成すときは、主君は間違いなくその人の心外にある。主君が心外に有って我れが心中にあるとき、謀は容易に成功するものである。十一には、その内部（組織）を開放したり閉鎖したりするようにして、通したり塞いだりを自由にし、時が至れば天が万物を枯らすようにせよ。十二に間諜（スパイ）によって隠密に敵情を察知し、自然な人情の機微によってこれを計略すれば、謀は必ず達成されるのである。